

発掘成果をふりかえって 1992

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

1992年も平安京跡をはじめとして長岡京跡・白河街区跡・鳥羽離宮跡など市内各所の主だった遺跡の調査を行いました。特に来年の「平安京建都1200年」に向けた事業が行なわれる岡崎グラウンドでは、平安時代後期の地業跡が見つかりました。また四条島丸付近では、弥生時代の建物を描いたと思われる線刻土器を発見するなど、各所で弥生時代から江戸時代までの多くの遺構・遺物を発見しました。これらの発見は京都の歴史を考えるうえで貴重な成果といえるでしょう。

今回は、その中から際立った遺構・遺物計9点を写真でここに紹介いたします。これらを通して京都の歴史の一端に触れてみてください。



1 白河街区跡 左京区岡崎最勝寺町 (岡崎グラウンド)

平安時代後期の築地跡 (手前) と南方湿地を埋め立てた地業跡 (北西から)。



2 平安京を京四條三坊 中京区錦小路通室町

屋根飾りの付いた建物を描いた弥生時代の線刻土器 (縦横 13cm)。



3 中匠遺跡 山科区西野山中臣町

火災の痕跡をとどめた弥生時代の住居跡、生活に使われた土器がそのまま残る (北東から)。



4 白河街区跡 左京区岡崎成勝寺町（京都市勧業館）

写真左 平安時代後期の井戸跡と室町時代の濬跡（西から）。

写真右 平安時代後期の井戸から出土した中国唐代（618～907年）の長沙窯黄釉褐彩の水注片（縦17cm、横9cm）。



5 平安京左京三条三坊 中京区烏丸通三条上る堀之町

写真左 室町時代後期の濬跡が見つかった庭園遺構（西から）。写真右上 楼閣山水文を描いた中国金代（1115～1234年）の陶枕片（縦11cm、横18cm）。写真右下 中国南宋（1127～1278年）の青磁水指（径24cm、高15cm）。



6 平安京左京五条四坊 下京区弘光寺通西入の高倉西前町（洛央小学校）

室町時代には活中に大きな塚があった（北から）。

調査地点